# 第 32 回オリンピック競技大会（2020／東京）における了徳寺大学職員柔道部の成果報告

山田　利彦，金丸　雄介
了徳寺大学・教養部

**要旨**

第32回オリンピック大会柔道競技がCovid-19パンデミックにより1年延期された2021年7月24日から31日までの8日間，日本武道館にて開催された．今大会へは了徳寺大学職員柔道部より100kg級にウルフアロンが出場し，了徳寺柔道選手初となる金メダル獲得の快挙を成し遂げた．了徳寺大学関係者より，金丸雄介准教授が男子73kg級，81kg級の担当コーチとして，秋本啓之講師が女子チーム78kg超級の担当コーチとして，石井孝法教授が強化委員会科学研究部員として，そして山田が強化委員会副委員長としての任を担い，日本チーム全体では，金メダル9個，銀メダル2個，銅メダル1個という過去最高の結果に繋げることができた．
キーワード：柔道，東京オリンピック，了徳寺大学職員柔道部

## A report on Judo in The Tokyo Olympic Games

Toshihiko Yamada，Yusuke Kanamaru
Center of Liberal Arts Education，Ryotokuji University

**Abstract**

The 32nd Olympic Games Judo competition was started on July 24 at Nippon Budokan in Tokyo for 8 days until July 31 after one year postponement because of the Covid-19 Pandemic．Aaron Wolf from Ryotokuji Judo Team participated 100 kg category in Judo at this Olympics and became the first Olympic Gold medalist ever in Ryotokuji Judo history．Yusuke Kanamaru coached men’s 73kg and 81kg category，and Hiroyuki Akimoto coached women’s +78kg category while Takanori Ishii conducted as one of the members of Science Research Dpt. in the National Team Committee of All Japan Judo Federation，and Toshihiko Yamada took a role of vice chairman of the National Team Committee as well．Japanese Judo team won nine gold，two silver，and one bronze medals in total．This result was the best result Japanese Judo ever had in the Olympic history.
Keywords: Judo，Tokyo Olympic Games，Ryotokuji Judo Team

## Ⅰ．はじめに

第32回夏季オリンピック競技大会がCovid-19のパンデミックにより，史上初となる1年の延期を経て，日本において2度目となる首都東京にて，過去に例を見ない無観客下にて実施された．柔道競技は総合開会式翌日となる7月24日から31日までの8日間，前回大会同様にオリンピック柔道の聖地である日本武道館にて開催された．今大会に了徳寺大学職員柔道部より，100kg級にウルフアロンが出場した．また併せて，男子73kg級，81kg級の担当コーチとして金丸雄介准教授，女子78kg超級の担当コーチとして秋本啓之講師，

全日本柔道連盟強化委員会科学研究部員として石井孝法教授，そして山田が強化委員会副委員長として大会に臨んだ．

## Ⅱ．出場選手内訳

14回目を数えるオリンピックでの柔道競技へは，難民選手団を含む128の国と地域から，男子201名，女子192名の計393名が参加した．図1にあるようにヨーロッパからの出場選手が半数を占めており，加盟国数における参加国の割合を見ても78％と他の大陸連盟に比べて非常に高い数値を示している（表1）．こうした状況からも，近年の柔道活動の中心が，欧州を基盤としていることが読み取れる結果といえる．欧州に続いて，パンアメリカ，アジア，アフリカ，オセアニアの順であり，オセアニア諸国からの出場はわずか2％に止まり，柔道小国が多く，またそれぞれの国が地域内に分散していることから国際大会の開催や派遣等についても他大陸と大きな乖離が見られる傾向が続いている（図1）．

**表 1　出場国数及び出場選手数の大陸別内訳**

| 大陸連盟 | 参加国数 | 加盟国数 | 加盟国数における参カ国の割合 | 参加選手数 | 大陸別割合 |
|---|---|---|---|---|---|
| アフリカ | 32 | 54 | 59% | 44 | 11% |
| ヨーロッパ | 42 | 54 | 78% | 197 | 50% |
| アジア | 26 | 43 | 60% | 89 | 23% |
| オセアニア | 6 | 20 | 30% | 8 | 2% |
| パンアメリカ | 22 | 36 | 61% | 55 | 14% |
| 合計 | 128 | 207 | 62% | 393 | 100% |

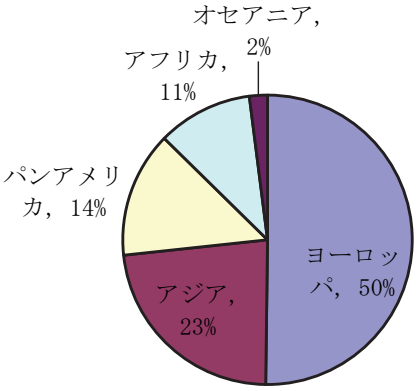


**図 1　大陸別出場選手割合**

## Ⅲ．会場

大会は前回の東京オリンピックの際に，柔道競技のために設立された日本武道館にて開催された[1)]（写真1,2）．この会場では柔道の他に，空手，そしてパラリンピックの柔道競技が行われた．改修前の日本武道館はウォーミングアップ会場が手狭であることが大きな課題になっていた．2019 年の世界選手権大会はテストイベントとして日本武道館で開催され，これに間に合わせる形で中道場棟が新たに建設された．本館についても今大会に向けて多くの改修がなされた．

前述の通り，今大会ではCovid-19感染の状況を鑑みて，無観客にて開催されたことから，会場内には選手，コーチをはじめとした各国選手団，国際柔道連盟関係者，審判や大会運営スタッフであるInternational Technical Official（ITO）とNational Technical Official（NTO），大会ボランティア，入場を許されたメディア関係者，国内外の限定されたオリンピックファミリーや各国政府関係者，そして大会組織委員会のメンバーと，入場を許された限られた人員の中での大会開催となった．試合はこれまでのオリンピック同様，予選ラウンド（1回戦から準決勝前まで）と決勝ラウンド（準決勝，敗者復活戦，3位決定戦，決勝）に分けて行われた．参加した過去大会では常に多くの観客が会場狭しと押し寄せていた柔道競技会場に観客が一人もいない状況は非常に残念ではあったものの，開催自体が危ぶまれた中では大会実施に理解を得る上では致し方ない決定であったと考える．

**写真1　第 32 回オリンピック競 技大会時の日本武道館の外観**

**写真2　第 32 回オリンピック競技大会時の試合場**

## Ⅳ．試合

大会はシドニー大会以来採用されている男女の最軽量階級である，60kg級と48kg級から開始され，髙藤直寿，渡名喜風南（共にパーク24）が出場した．渡名喜は序盤から危なげない試合を展開し，準決勝では世界選手権2連覇の実績を持つビロディド（ウクライナ）と対戦した．ここでは延長に入っての横四方固で退け，決勝進出を決めた．決勝では，2021年6月での世界選手権で角田夏実が一本勝ちをしたクラスニキ（コソボ）と対戦し，一進一退の攻防の中，試合最終盤に内股で技ありを奪われてしまい，銀メダルに終わった．

髙藤は，これまでの大会とは違い，なかなか技によるポイントが奪えない展開が続き，接戦となる試合が多かったものの，強豪を下して決勝に進出を決めた．決勝では台湾のヤンをゴールデンスコアに突入した後に指導3で振り切り，前回リオ大会で銅メダルに終わった雪辱を果たし，今大会日本人第一号となる金メダルを獲得した．日本チームとしても期待していた初日に金メダルを獲得できたことで，幸先の良いスタートを切ることができた．

2日目は66kg級と52kg級が行われ，五輪史上初となる兄妹同日優勝を目指して，阿部一二三（パーク24），阿部詩（日本体育大学）が出場した．阿部詩は，徹底マークを受ける中，ベテラン強豪選手の思わぬ敗戦などもあり，接戦の中に勝機を見出して決勝にコマを進めた．決勝でも以前不覚を取ったことのあるブシャー（フランス）を相手に息詰まる戦いの中，我慢の柔道を展開し，最後は崩袈裟固に固めて，オリンピック52kg級では日本女子初となる金メダルを獲得した．

阿部一二三は序盤から持ち味を発揮して勝ち上がり，対戦が予想された強豪選手の敗戦も重なり，順当に決勝進出を決めた．決勝ではこの日好調のマルグヴェラシヴィリ（ジョージア）から中盤に大外刈で技ありを奪い，そのまま押し切って，史上初となる兄妹同日金メダル獲得の快挙を達成した．2日目を終えて金メダル3個を獲得し，この時点で前回リオデジャネイロオリンピックと並ぶ，金メダル獲得数となった．

3日目は73kg級と57kg級が行われ，前回大会金メダリストの大野将平（旭化成）が連覇を狙い，2018年の世界王者・芳田司（コマツ）が初出場の舞台にのぼった．芳田は初戦から好調な試合ぶりで順当に勝ち上がり，準決勝でジャコヴァ（コソボ）との対戦を迎えた．この試合でも終始芳田が主導権を握るも守勢の相手になかなか指導が与えられず，逆に延長に入って雑になったところを小外掛に合わされ，3位決定戦に回った．3位決定戦では意地を見せて一本勝ちで勝利し，銅メダルを確保した．

金丸准教授がコーチとして担当した前回王者の大野は初戦から準決勝まで一本勝ちで勝ち上がり，準決勝も落ち着いた試合ぶりで危なげなく技ありを奪って勝利し，連覇に王手をかけた．決勝ではロンドン五輪66kg級の覇者で，リオデジャネイロ銅メダリストのシャヴダトゥアシヴィリ（ジョージア）との戦いとなった．この日好調の相手に対して大野はいつも通り落ち着いた戦いぶりで，勝負は延長戦に突入した．延長に入って徐々に大野の形になる場面が増え，大外刈で攻め込みながら，最後は支釣込足を押し込んで激闘を制し，見事オリンピック2連覇を達成した（写真3）．3日目までで，前回大会を上回る4個目の金メダルを手中にし，全員がメダルを獲得するという素晴らしい流れで翌日につなぐこととなった．

**写真3　大野将平選手と金丸コーチ**

個人戦の折り返しとなる大会4日目は，81kg級に前回銅メダルの永瀬貴規（旭化成），63kg級に2大会連続出場で前回メダルなしに終わった田代未来（コマツ）が出場した．田代は2019年の世界選手権決勝で敗れた最大のライバルであるアグベニュー（フランス）と逆パートにシードされ，決勝でのリベンジが期待された．しかし現実は残酷な結果となり，2回戦で伏兵のオズドバ＝ブラフ（ポーランド）に一本負けを喫し，大会を去ることとなった．十分な実力がありながら，2大会連続でメダルに届かないという厳しい結果となり，改めて勝負の厳しさを思い知らされた敗戦であった．

永瀬は初戦からメダル候補たちとの厳しい対戦が続き，一瞬たりとも気の抜けない試合を持ち前の粘り強い我慢の柔道で勝ち上がり，前回大会銅メダルの結果を超える決勝進出を決めた．決勝ではこの日好調のモラエイ（モンゴル）と対戦し，お互い一歩も引かない戦いの中，ゴールデンスコアに突入した試合は，最後に永瀬が体落で技ありを奪って優勝を遂げ，金丸准教授が担当した2階級とも金メダル獲得という最高の結果となった(写真4)．男子は4日目まですべての階級を制するという過去最高の成果を上げたものの，女子では今大会初めてメダルを逃す結果となり，勝負の怖さを改めて再認識することとなった．

**写真4　永瀬貴規選手と金丸コーチ**

大会5日目は男子90kg級に2019世界選手権2位の向翔一郎（ALSOK），70kg級に2017，18年世界選手権連覇の新井千鶴（三井住友海上）が出場した．新井は初戦から難敵との対戦を問題なく勝ち上がり，準決勝で大会前の国際大会で苦杯を喫したタイマゾワ（ロシア）との対戦を迎えた．勝負は延長に突入後も新井がペースを握りながらも決めきれず，試合は本戦を合わせて16分を超える大会最長の戦いとなった．この試合，最後は新井が送襟絞で相手を絞め落とし，悲願の優勝まであと一歩に迫った．決勝では伏兵のポレレス（オーストリア）を小外刈による技ありで下し，日本女子に2つ目の金メダルをもたらした．

一方の向は，初戦を一本勝ちで突破したものの，2回戦でトート（ハンガリー）との接戦を我慢しきれずに敗れ，男子の連続金メダル獲得及びメダル獲得はここに潰える結果となった．

大会は6日目を迎え，いよいよ男子100kg級にウルフアロン，女子78kg級に濱田尚里（自衛隊体育学校）の共に元世界チャンピオンの出番となった．この日の濱田は盤石の出来で，得意の寝技を駆使して一本勝ちの山を築き，決勝でもライバルのマロンガ（フランス）に何もさせず，崩上四方固に極めて，日本女子に3個目の金メダルを最高の内容でもたらした．

ウルフは，2019年に同じ日本武道館にて開催された世界選手権では銅メダルに終わり，同年12月に行われたワールドマスターズ青島大会では強豪を倒して決勝にコマを進めたものの，ここで軸足である右膝の半月板を損傷し，帰国後すぐに切除手術を行った．7月の本番まで突貫的なスケジュールでの仕上げ方を余儀なくされる予定であったが，大会が1年延期となり，ウルフにとっては大きな追い風となった．それでもなかなか膝の調子が上がらない日々が続いたが，ようやく大会を前にして，それまで口にしていた膝の不安感が軽減され，大会に向けて戦う準備が整っていった．加えて大会前日に行われる計量の際の一瞬のみ落とす形で取り組んできた減量も過酷を極めたが，何とか無事突破することができ，試合当日を迎えた．しかしその試合日に，抽選で行われるランダム計量の対象者（各階級4名）に選出され，100kg級の階級体重に＋5％以内での再計量を行わなければならないこととなった．106.4kgから当日の調整練習で104.8kgまで落として計量を通過し，いよいよ初戦を迎えることとなった．

初戦は2021年アジアオセアニア選手権大会の決勝を争ったフラモフ（ウズベキスタン）との対戦となった．過去2回の対戦では内股による一本勝ちで下しており，相性的には悪くない選手であった．背中を叩いて間合いを詰めてくる相手に対してウルフも脇を差して対抗し，片手からの内股などで応戦する．その後，内股を警戒する相手に対して逆方向に体を捨てての横分が豪快に決まり，幸先の良い内容で初戦を突破した．

続く準々決勝は2020年のヨーロッパチャンピオンでシード選手であるパルティック（イスラエル）との試合を迎えた．激しい組手の主導権争いの中，ウルフが徐々に自分の形を作りながら試合のペースを握り，終盤間合いが詰まったところに得意の大内刈で技ありを奪い，そのまま寝技の展開に持ち込んで押し切って，準決勝進出を決めた．

準決勝では，2017年の世界選手権決勝を争った，リオデジャネイロオリンピック90kg級銀メダリストで現世界ランク1位のリパルテリアニ（ジョージア）と相対した．間合いを詰めてくる相手に対してウルフはしっかりと対応して，相手の形にさせないまま試合は進む．一気に間合いを詰め，勝負に出ててきた相手に対してその機会を逃さずに，ここも得意の大内刈で一気に攻め込み，技ありを先取する．その後は無理をせず，相手の猛攻に対して冷静に対処して押し切り，いよいよ金メダルを目指して，決勝にコマを進めた．

決勝では2019年の世界チャンピオンで，その際に敗れたチョ（韓国）との再戦となった．激しい組み手

争いが続くもお互い妥協せず，ウルフもチョの左一本背負投に対して十分な警戒を払いながら試合を展開し，勝負はあっという間にゴールデンスコアに突入する．延長に入ってから徐々にウルフが良い形を作り始め，それぞれに指導が2つずつ与えられた後，チョに疲労の色が浮かび上がり，掛け逃げと判断されても仕方ない技の威力となってきた．ウルフはそのチャンスを逃さず，引手を掴んでから組み際の豪快な大内刈で相手を畳に叩きつけ，試合開始から9分35秒，見事，了徳寺柔道悲願の金メダル獲得の瞬間となった（写真5，6，7）．この日のウルフは初戦から身体の動きもよく，またしっかりと我慢するところは我慢し，自分の形に徹底してこだわり，得意のスタミナ勝負に持ち込むことができた点が大きな勝因であったと考える．

**写真5　優勝を決めたウルフ（©IJF）**

**写真6　試合直後のウルフ選手と筆者**

**写真7　表彰式後にウルフ選手と筆者**

個人戦最終日となった大会7日目は前回大会+100kg級銀メダルの原沢久喜（百五銀行），秋本啓之講師が担当し，2019年世界選手権を制して勢いに乗る+78 kg級の素根輝（パーク24）が出場した．素根は，厳しい組み合わせとなった中でも持ち味の安定感と隙を逃さない攻めで勝ち上がり，決勝でこれまでに金メダルを含む3個のオリンピックメダルを獲得しているオルティス（キューバ）との対戦を迎えた．この試合でも素根らしく厳しい組手から自分の間合いを徹底し，延長に突入後も変わらず良い形で攻め続け，最後は指導の累計により相手の反則負けとなり，ここに女子4人目の金メダリスト誕生となった．併せて金丸准教授，秋本講師の担当した3階級全てで金メダル獲得の快挙を成し遂げ，了徳寺強化スタッフとしてもこれ以上ない結果となった．

**写真8　素根輝選手と秋本コーチ**

原沢も初戦から強豪との対戦が相次ぎ，消耗戦となった2試合をものにして，準決勝に進出した．準決

勝では2019年の世界選手権決勝で敗れたクレパレク（チェコ）と対戦し，この試合も延長に突入後，疲労が蓄積した原沢が決めきれず，最後は大外刈で技ありを奪われ，3位決定戦に回った．3位決定戦では前回大会の決勝と同じ顔合わせとなり，原沢の雪辱が期待されたが，リネール（フランス）に攻め込まれ，最後は指導3による反則負けで，メダルにはあと一歩届かなかった．しかしながらここまでに日本チームとしては過去最高となる金メダル9個を獲得した（表2，3参照）．

大会最終日にはオリンピック初開催となる混合団体戦が行われ，出場資格を満たした12チームが参加し，初代チャンピオンの座を目指して激しい戦いの火ぶたが切って落とされた．日本は初戦となったドイツとの準々決勝で，先鋒の阿部詩，エース大野が相次いで敗れるという波乱の展開となったが，その後，新井，向，素根，ウルフが勝利し，接戦を制して準決勝進出を決めた．

準決勝はロシアオリンピック委員会との対戦となり，この試合では大野，新井，向，素根と4連勝で一気に試合を決め，金メダルを賭けて，フランスとの決勝戦に臨んだ．

決勝は先鋒の新井がアグベニューに敗れ，続くここまで好調の向も不覚を取り，厳しい戦いを余儀なくされた．ここで，怪我を抱えていたものの素根がしっかりと仕事をし，1点を返した．続くウルフとリネールの対戦は延長までもつれ込む接戦となり，徐々にウルフの形になりつつあると思われた中，小外掛を内股に合わされてしまい，1勝3敗と後がなくなってしまった．続く芳田も怪我を抱える中，奮闘したが技ありを奪われて万事休す，これまですべての混合団体戦で勝利していた日本であったが，フランスに不覚を取り，初代オリンピックチャンピオンの座を失う結果となった．非常に悔しい敗戦ではあったが，選手たちの頑張りには心から敬意を払いたいと考える．この雪辱は3年後のパリオリンピックで果たすべく，今後，取り組んでいきたいと考える．

**表 2　オリンピック柔道競技における日本の獲得メダル数**

| 開催年 | 開催地 | 階級 | 金 | 銀 | 銅 | 総数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1964 | 東京 | 男子4階級 | 3 | 1 | 0 | 4 |
| 1968 | メキシコ | 実施されず | - | - | - | - |
| 1972 | ミュンヘン | 男子6階級 | 3 | 0 | 1 | 4 |
| 1976 | モントリオール | 男子6階級 | 3 | 1 | 1 | 5 |
| 1980 | モスクワ | ボイコット | - | - | - | - |
| 1984 | ロサンゼルス | 男子8階級 | 4 | 0 | 1 | 5 |
| 1988 | ソウル | 男子7階級 | 1 | 0 | 3 | 4 |
| 1992 | バルセロナ | 男女14階級 | 2 | 4 | 4 | 10 |
| 1996 | アトランタ | 男女14階級 | 3 | 4 | 1 | 8 |
| 2000 | シドニー | 男女14階級 | 4 | 2 | 2 | 8 |
| 2004 | アテネ | 男女14階級 | 8 | 2 | 0 | 10 |
| 2008 | 北京 | 男女14階級 | 4 | 1 | 2 | 7 |
| 2012 | ロンドン | 男女14階級 | 1 | 3 | 3 | 7 |
| 2016 | リオデジャネイロ | 男女14階級 | 3 | 1 | 8 | 12 |
| 2020 | 東京 | 男女14階級<br>混合団体 | 9 | 2 | 1 | 12 |

**表 3　東京オリンピックメダル獲得国ランキング[2)]**

| | 国名 | 金メダル | 銀メダル | 銅メダル | 総メダル数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 日本 | 9 | 2 | 1 | 12 |
| 2 | フランス | 2 | 3 | 3 | 8 |
| 3 | コソボ | 2 | 0 | 0 | 2 |
| 4 | ジョージア | 1 | 3 | 0 | 4 |
| 5 | チェコ | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 6 | ドイツ | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 6 | 韓国 | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 6 | モンゴル | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 9 | オーストリア | 0 | 1 | 1 | 2 |
| 10 | キューバ | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 10 | スロベニア | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 10 | 台湾 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 13 | ROC | 0 | 0 | 3 | 3 |
| 14 | ブラジル | 0 | 0 | 2 | 2 |
| 14 | カナダ | 0 | 0 | 2 | 2 |
| 14 | イタリア | 0 | 0 | 2 | 2 |
| 17 | ｱｾﾞﾙﾊﾞｲｼﾞｬﾝ | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 17 | ベルギー | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 17 | イギリス | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 17 | ハンガリー | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 17 | イスラエル | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 17 | カザフスタン | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 17 | オランダ | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 17 | ポルトガル | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 17 | ウクライナ | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 17 | ウズベキスタン | 0 | 0 | 1 | 1 |
| | 国数 | 5 | 10 | 20 | 26 |

## Ⅴ．審判

これまで長らく審判理事を務めてきたバルコス氏（アテネ～リオデジャネイロまでの４大会）からラスコー氏へと体制が変わった[3) 4)]ことから，過去大会でも見られていたオリンピックにおける技での決着を望む傾向が一段と強まり，オリンピックや世界選手権ではほとんど見られなかった長い試合が何試合も見られた．このことは日本選手の今回の結果にも大きく影響したと思われる．もともと投げることのできる技術を持ち，スタミナには絶大な自信を持つ日本の選手たちにとっては大きな追い風になったものと考える．

## Ⅵ．全日本柔道連盟強化委員会の取り組み

東京オリンピックに向けて，新たに金野潤強化委員長の下，発足した強化委員会において，5年間の代表的な取り組みを下記に記載する．

・選考基準の明確化

リオデジャネイロオリンピック時より採用した国内ポイントシステムを微修正し，国際大会での結果に重点を置いたポイントの付与により，明確な選考基準を内外に示した．また併せて強化システムに関する規定作成及び修正[5]についても徹底した議論を重ね，選手にしっかりと説明を行い，選考の透明性と平等性の担保に努めた．

・早期内定制度の構築

オリンピックに向けての準備期間を少しでも確保するため，体制発足直後より世界選手権大会優勝者が同年の国内で開催されるグランドスラム大会にて優勝した場合は，次年度の世界選手権の内定を与える制度を構築．これにより，2017年度は男子2名（翌年の世界選手権でも連覇を達成），2018年は女子2名（内1名が翌年の世界選手権で連覇達成）が内定となり，その内定選手が好結果を残したことも勘案され，東京オリンピックに向けても同様の制度が採用された（女子1名が内定）．また加えて，同階級で代表を争う選手間に明確な差がついたと2月の強化委員会の時点で判断された場合は，4月の選考会を待たずに内定を与える制度も構築し，男女12名が内定を受けることとなった[6]．結果的に，コロナ禍により，国内外の試合が中止や延期となった状況下で，この内定制度により早期にオリンピック代表，補欠を決定できていたため，集中した強化に当たれたことも今回の好結果の要因の1つであると考える．

・選手の所属先との協働体制の構築

普段代表選手は各所属先にて練習を行っており，所属の指導者と強化スタッフとの連携の強化を徹底した．代表決定後は各担当コーチと所属コーチが共に本大会までのスケジュールを共有し，本大会までの合宿や本大会にも所属の指導者を特別コーチとして招聘するなどの協働体制を構築した．また，各国際大会での反省や課題についても所属先と共有し，切れ目ない強化に取り組んだ．

・男女の協力体制の確立

これまで実質的には別々に行っていた男女の強化について，共有すべきところは共有し，世界大会後には男女全スタッフ出席のもとで検証会議を行い，取り組みや課題についてお互いに認識合わせを行い，ワンチーム体制の構築を図った．併せて混合団体戦の実施に伴い，男女間のチームビルディングにも力を入れ，チームワークの強化に努めた．

・他競技や他分野からの学びの機会の提供

レスリングやクライミングとの合同練習や柔術の講習，茶道，書道や陶芸といった日本文化の体験など，柔道以外の分野の経験や体験を通して選手，スタッフに刺激を与えると共に，人間力向上の機会の提供により，精神面での充実を促した．

・アスリートファーストの徹底

常にアスリートファーストの実践を掲げ，兎角，試合結果による振るい落としの機会とも捉えられがちな強化の舞台で，選手個々の尊厳を一番にとらえ，丁寧な対応に心掛けた．怪我等の状況を鑑みての国際大会派遣や選手が戦いやすい環境形成のために世界大会へ選手の希望する帯同者の派遣なども実施し，アスリートファーストに努めた．

・科学的サポート体制の構築

石井孝法教授が中心となって行った科学研究部による対戦相手や審判の分析及びそのフィードバック，フィジカルトレーナー3人体制による体力強化への充実したアプローチ，栄養士による徹底した食事の重要性の教育及び実践，そして個々の選手に合致した減量方法やリカバリーの対応など，これまで裏方

と考えられていたスタッフや役割についても大きな資源を割き，スポットライトを当てることにより，充実した選手のサポート体制を構築した．

・地の利の活用

東京での地元開催のオリンピックであることから，慣れ親しんだナショナルトレーニングセンターの活用や試合直前の宿泊先の確保なども含めて，選手たちが一番力を発揮しやすい環境の提供に努めた．また，事前にJOCと組織委員会との協定に沿って，日本武道館の視察を実施し，スポーツマネージャーとして山田が詳細にわたり説明を行うことにより，大会本番に向けての入念な準備を行った．

## Ⅶ．おわりに

アテネオリンピックから始まった了徳寺柔道チームのオリンピックへの挑戦は，アテネ大会補欠4名，北京大会4名出場のうち2名が7位入賞，ロンドン大会銀メダリスト1名，5位入賞1名[7]，そしてリオデジャネイロ大会では2名が補欠に甘んじるという厳しい戦いが続いた．そしてようやく自国開催で向えた東京オリンピックは，コロナ禍により１年延期となる中，すさまじい世論の逆風を受けながらも開催に漕ぎ着け，ここにウルフアロンが見事な柔道を展開し，チームの悲願であった金メダルを獲得するに至った．これも常に温かい目で見守っていただいた了徳寺健二理事長をはじめとする，学園・大学関係者のご指導，ご支援の賜物であると心より感謝を申し上げたい．また，全日本強化委員会副委員長として，何度も何度も執行部メンバーと会議を重ね上記記載の施策を実施し，取り組んできた結果が今回の史上最高となる９個の金メダルを含む12個のメダル獲得につながった事を，心より嬉しく思う．了徳寺大学関係者の金丸，秋本両コーチの担当階級での3個の金メダルを獲得，そして今大会の日本チーム躍進の大きな推進役となった石井氏の科学研究部の分析についても，了徳寺理事長のご理解のもと，こうした役職に携わらせて頂き，結果に繋げることができたことは，今後のグループ発展の一助になればと考える．今回の結果に甘んじることなく，引き続き世界選手権，オリンピック大会でのチャンピオン輩出を目指して精進していきたいと思う．

## Ⅷ．文献


１）日本武道館（2021）日本武道館について, https://www.nipponbudokan.or.jp/about/history（2021.10.25 10:00アクセス）

２）International Judo Federation（2021）OLYMPIC GAMES TOKYO 2020, https://www.ijf.org/competition/2035（2021.10.25 11:00アクセス）

３）International Judo Federation（2021）Mr. Juan Carlos Barcos Steps Down, https://www.ijf.org/news/show/mr-juan-carlos-barcos-steps-down（2021.10.25 11:30アクセス）

４）International Judo Federation（2021）Plan B, https://www.ijf.org/news/show/plan-b（2021.10.25 12:00アクセス）

５）全日本柔道連盟（2021）強化システムに関する規定. https://www.judo.or.jp/aboutus/aboutus-regulations/（2021.10.25 12:30アクセス）

６）全日本柔道連盟（2020）第32回オリンピック競技大会柔道競技代表内定者一覧（2月27日）. https://www.judo.or.jp/news/688/（2021.10.25 13:00アクセス）

７）山田利彦（2013）ロンドンオリンピック柔道競技報告．了徳寺大学研究紀要．7，9-17.

2021年11月10日　受理
了徳寺大学研究紀要　第16号